

令和元年度 第2回大府市地域福祉推進会議議事録(要約)

日 時 令和元年9月25日(水) 15時～16時30分

会 場 大府市役所203会議室

出席者 (委員) ※敬称略

委員長 浅田勝茂、副委員長 中村直也、深谷正比古、原田正樹、武田生子、安井好子、鈴木悦彦、鷹羽泰孝、久野晃、矢澤久子、山崎貴嗣、渡辺隆夫、萱野佐知子、山本芳

※杉原孝子委員は欠席。

(事務局) ※所属順

福祉子ども部長 鈴置、地域福祉課長 長坂、高齢障がい支援課長 近藤、地域福祉課福祉係長 坂野、高齢障がい支援課高齢係長 小島、高齢障がい支援課障がい係長 夏目、地域福祉課福祉係 新美、大府市社会福祉協議会事務局長 池田、地域づくりコーディネーター 櫻木、大府市社会福祉協議会事業課 三好

(オブザーバー)

知多北部広域連合 佐田知子、後藤慶子

〈司会：地域福祉課長 長坂〉

委員長あいさつ

委員長)

- ・忙しい中、会議の参加に感謝する。
- ・委員の皆様には、忌憚のない意見を願います。

1 議題

〈司会：浅田議長(委員長)〉

(1) 第2次大府市地域福祉計画(令和2年度～11年度)体系案について[資料No.1～3]

- ・第1回・第2回作業部会と各地区の地域福祉行動計画から抜粋したものを整理した。

①計画策定に係る現状と課題[資料No.1]

事務局 坂野)

- ・第1回作業部会と第2回作業部会で意見を出し話し合いをしたものを集約し、ジャンル分けした資料。
- ・「⇒」の項目が、各ジャンルの課題を取りまとめたもの。
- (「⇒」の課題を取りまとめたものを資料に沿って説明)

②地域福祉計画のコンセプト(案)・構成(案)・位置づけ[資料No.2]

- ・資料No.1に基づいて作成した。
- ・第2次大府市地域福祉計画の構成(案)(P8)は、地域福祉計画の目次のようなもの。
- ・「5 本市の現状と課題」の「(4)課題」(P8)は、資料No.1に基づいて作成する。
- ・P9は、第1回地域福祉推進会議でも示したが、修正した箇所あり。
- ・「サステイナブル」は、「持続可能」という意味。
- ・各分野の計画に横串を刺すようなイメージの計画。
- (資料に沿って説明)

③地域福祉計画の体系(案)・様式[資料No.3]

- ・基本目標1は、まず小グループ(点)で福祉のことを知る機会を作っていきたいということ。
- ・基本目標2は、地域組織・地域組織以外の団体への参加、点が集まるイメージ
- ・基本目標3は、点から点が集まって、連携・協働していく(ネットワーク)というイメージ。
- ・基本目標4は、基本目標1～3までの地域での取組で対応しきれい事項に対して、漏れや取りこぼしが無い体制作り。
- ・★が付いた重点目標は、今後も選定していくもの。

- ・ P11 は、フォーマット（様式）の案。
- ・ P12 は、第1層のさらに外に広域があるという構図。
（各基本目標を資料に沿って説明）

【質疑応答】

委員)

- ・ 第1次地域福祉計画の評価は、資料 No. 1 の現状と課題に入っているのか。これまでの地域福祉計画での成果や強みを示した上で、今回の計画では、課題への指摘をしていくのが良いのではないか。
- ・ いろいろな課題が出てきているのは良いことだが、地域福祉計画で取り上げる課題と分野別計画で取り上げる課題を整理すると良いのではないか。
- ・ 地域福祉計画と分野別計画との理念の整合性はどうか。どのように検討されているのか。

事務局 坂野)

- ・ 第1次地域福祉計画の評価についても、計画の背景と趣旨の中で検討していきたい。
- ・ 今までやってきたことの成果や課題を踏まえて考えていきたい。
- ・ 本計画の理念と、地域包括ケアビジョンとのすり合わせは進めている。
- ・ 個別の分野別計画とは、まだ理念をすり合わせていないが、地域福祉計画の理念が分野別計画の基になっていくと考える。現状では齟齬はないと認識している。
- ・ ボランティアや地域組織等、大府市には他市と比較しても強みがある。
- ・ 大府の強みを引き出した大府ならではの地域福祉計画ができるよう意識していきたい。

委員)

- ・ 今までやってきてことを反省しないと次につなげていけないのではないか。

事務局 坂野)

- ・ 地域福祉計画では具体的なことには踏み込まないが、より良くしていくための仕組みや考えは計画で示したい。

委員)

- ・ 毎回同じ課題が挙がって同じことが書いてあり、反省をしなければ具体的な進みがない。
- ・ 課題が多すぎる。特出した課題はこれだ、というものはあるのか。

事務局 坂野)

- ・ 今回掲載している課題は、事業として横申するための事案として掲載している。計画に際しては、内容を精査し、具体的な事業のボリュームを大きくしたりする可能性がある。

委員)

- ・ 子育て会議には教育委員会が参加しているが、地域福祉計画の位置づけには教育委員会が入っていない。どのような位置づけになるのか。
- ・ 不登校の実態を把握しているのか。
- ・ 学校への適応を目的としないフリースクールが必要なのではないか。現在あるものは、学校へ適応しに行くことが目的のため。学校以外の場で輝ける場の必要性。
- ・ 外国人の子が就学前に無料で語学を勉強できる場はあるのか。
- ・ 教師に対して外国人の子を差別しないための指導はしているか。

事務局 坂野)

- ・ 教育委員会の計画との整合性も確認する。
- ・ 不登校の会議に事務局職員も参加して、実態を把握するようにしている。
- ・ 市内に外国人を支援する団体がある。市としても日本語教室の開催をしている。多文化共生という視点で見れば青少年女性課が担当しており、垣根がない支援を目指していると聞いている。
- ・ 計画内に、外国人の問題を明文化して盛り込むかどうかは検討する。

事務局 鈴置)

- ・ 地域福祉計画で取り上げる課題と、課題としては出てきていても地域福祉計画では扱わずに分野別計画で扱うものもある。
- ・ 地域福祉計画とはどのようなものなのか再確認する必要がある。地域福祉計画とは、分野別計画での取組が必要な人に届かないこともあるが、それをうまく届くような仕組みづくりの役割を果たすものである。他にも、制度の切れ目（例：不登校とひきこもり）をどうつなげるかについても考えていくものである。
- ・ 地域福祉計画では課題としては扱わないことも、課題としての認識は持ち、分野別計画で取り組んでもらうようにする。

委員)

- ・前述したような取組をお願いしたい。

事務局 鈴置)

- ・現状と課題で挙げられた課題は、分野別計画で対応できるように各課に提供していく。

事務局 坂野)

- ・地域福祉計画の作業部会に多文化共生を担当している青少年女性課の職員も入っており、意見の共有をしている。

(2) 地域づくりコーディネーターによる取組について[資料 No. 4]

事務局 櫻木)

- ・市内8箇所目の常設サロン「大府長寿会 大倉カフェ」が開設された。
 - ・老人クラブ連合会、大府長寿会、大府市社会福祉協議会、市の協力あり。
 - ・老人クラブ直営の常設サロンは初。
 - ・1日12名が来場すると黒字となる。現時点では、黒字。
 - ・交流が増えて楽しいという声があった。
 - ・今回は公共施設を使っているが、公共施設を使うことには難しさもある。
 - ・「サロンだんだん」という常設サロンには、スタッフは40名以上いる。客として来ていた人がスタッフになる例もあった。
 - ・「大倉カフェ」には、親子連れも来場し、子どもや若い世代と老人とのつながりもあって良い。
- (資料に沿って説明)

【質疑応答】

委員)

- ・地域づくりコーディネーターは、よく頑張っている。買い物支援等でもお世話になっている。

委員)

- ・サロンの開設時間を教えてほしい。

事務局 櫻木)

- ・午前9時から午後1時まで開設している。

委員)

- ・食事の提供はないのか。

事務局 櫻木)

- ・ありません。

委員)

- ・「サロン」は、お年寄りの方が集まる場というイメージがある。年齢に関係なく行って良いのか。

事務局 櫻木)

- ・どの年齢の人が来ても良い。
- ・飲み物がコーヒー、お茶、紅茶しかないので、自動販売機で買って持ち込むこともできる。

委員)

- ・以前、精神障がい者の居場所づくりという話題が出たが、それ以上の進展がなかった。サロンも増えてきたので、是非障がい者の居場所としても受け入れてもらいたい。
- ・市の補助金はいくらか。

事務局 小島)

- ・初期費用として30万円、9月から3月の運営費補助金として21万円補助している。
- ・初期費用は今年度のみ。来年度以降は必要に応じて申請してもらおうということになっている。

委員)

- ・自分の法人も常設サロンを運営しているが、1日1,200円補助を受けている。

2 事務連絡

<司会：地域福祉課長 長坂>

今後の開催日程について

- ・11月末頃までに冊子にしていきたい。
 - ・パブリックコメントは、12月20日から1月20日までを予定している。細かいことを示すのではなく、大まかな意見を聞いていく。また、パブリックコメントを行う前に、地域福祉推進会議の委員に詳細を提示できるように準備を進める。
- 以上—